

# “ソーシャルディスタンス”と



## “フィジカルディスタンス”の違いって何？

### ★「ing」がつくだけで違う意味に変わる

コロナ禍によって有名になった言葉の1つに、“ソーシャルディスタンス”があります。すっかり耳慣れた言葉ですが、英語では“Social distancing（ソーシャルディスタンシング）”と書きます。

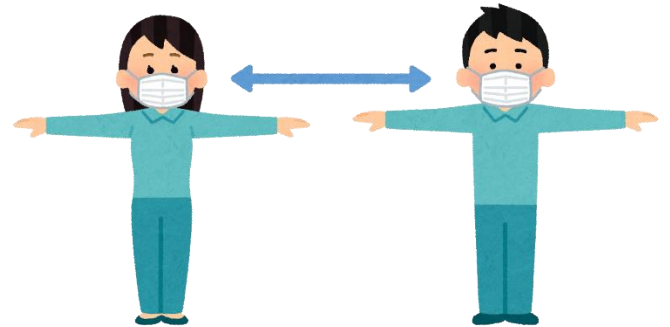
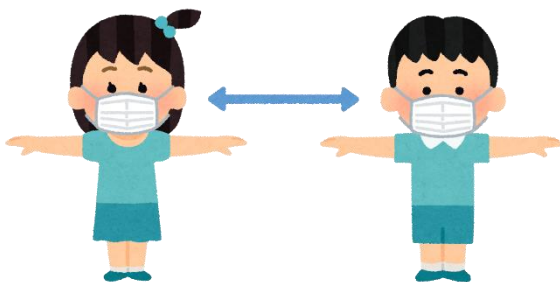
本来、ソーシャルディスタンスの意味は、「社会的距離（心理的なものも含む人と人との距離）」となっており、社会的孤立や民族・集団の違いによる距離感を示す際にも使用される場合があります。

しかし、ソーシャルディスタンシングであれば、「感染予防のためにとる対人距離」という物理的距離を保つ意味合いとなります。

### ★家族と「社会的距離をとる」に違和感…？

しかし、英語圏でも「Social（社会的）」という部分が誤解を招く恐れがあるので、別の単語に変えようとする動きがあります。それは、外出時よりも自宅内での表現として特に違和感があるようです。

例えば、家族との食事でも、間隔をあけたり、対面を避けて座るなどの以前とは違う生活スタイルが始まりました。これらの習慣も含まれるため、食卓で家族と「社会的距離」をとるといような違和感のある表現になります。



### ★WHO がフィジカルディスタンシングに

そこで、世界保健機関（WHO）は、社会的距離を物理的距離（Physical distancing）という言い方に改めました。そのため、今後は言葉の使用も移行していく可能性があります。

【※フィジカル（Physical）は「物理的、身体的」という意味です。】

また、WHOは、「我々があえてフィジカルディスタンシングと言い換えているのは、人と人とのつながりは引き続き保ってほしいと思うからだ。」と説明しています。

日本語にとっては、まともや落とし穴のようですが、英語ではやはり語尾に「ing」をつける使い方のほうが現状多いようです。

しかし、フィジカルディスタンス（Physical distance）でも「物理的距離」と同様に「物と物の間に存在する距離」という意味になります。

日本人にとって言い換えが定着していくかは、未知数ですが、言葉に込められている本来の意味を正確に使用し、コロナ禍の中で重要となってくる“人と人とのつながり”を大切にしていけたらと思います。そのため、いずみさの女性センターでは、“フィジカルディスタンス”を使用していきます。